

山梨県の農林水産業の概要

特徴・取組

山梨県の総面積は4,465km²で、その約78%を森林が占め、周囲は急峻な山々に囲まれ、農地は総面積の約5%である。
気候は、夏と冬、また1日のうちでも昼夜の気温較差が大きく、降水量は少なく日照時間が長い内陸性気候で、このような特性を生かした農業が展開されている。

山梨県の産業構造をみると、全国と比較して第2次産業の割合が高い。特に製造業では、生産用機械や精密機器、飲食料品（ミネラルウォーターやワイン等）、地場産業である貴金属装身具の出荷額は国内トップクラスとなっている。

耕地面積23,300haのうち、田は7,710ha、畑は15,600haで、畑のうち樹園地が9,960ha（耕地面積の4割）を占めている。
果樹を中心に、野菜、畜産、水稻、花きなど、様々な品目が生産されており、中でも生産額の最も大きい果樹は、ぶどう、もも、すももの収穫量が全国第1位である。
また、果実はアジア地域を中心に輸出されており、令和2年度の果実輸出額は約10億7,500万円となっている。

山梨県では、経済のグローバル化やIoTやAIなどを活用した技術革新の進行など、農業を取り巻く環境の変化に的確に対応すべく令和元年12月に「やまなし農業基本計画」を策定。山梨県総合計画の改定に伴い、本計画も令和3年9月に改定され、生産者の更なる所得向上（豊かさの実感）に向け、各方面で施策を進めている。

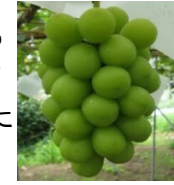
本計画に沿って、生産者の更なる所得の向上を実現するため、以下の2つの目標と7つの柱に分類した施策に取り組んでいる。

- I 稼ぐ力を最大限発揮できる環境整備
- ① 成長産業化に向けた担い手の確保・育成
 - ② 農業生産の効率化、農産物の高品質化
 - ③ 品目別の生産振興策
 - ④ 販売につながるプロモーション等の展開
 - ⑤ 地域の農産物の利用促進
- II 豊かで活気ある農山村の創造
- ⑥ 地域資源を活用した農山村の活性化
 - ⑦ 力強い農業を支える基盤整備

主な農林水産物

ぶどう

栽培の歴史は日本で最も古く、約1300年前からとも言われる。収穫量は全国の約2割を占め、香港等に輸出している。
(収穫量全国1位)



もも

ももの花が咲く春の甲府盆地はピンクの絨毯を広げたようである。収穫量は全国の約3割を占め、香港等に輸出している。
(収穫量全国1位)



すもも

大玉で高糖度の「貴陽（きやう）」が目されている。収穫量は全国の約3割を占める。
(収穫量全国1位)



おうとう

高級感漂う初夏の果物で、5月上旬から観光農園でもぎ取りが楽しめる。
(収穫量全国3位)



肉用牛

豊かな自然の中で肥育され、高品質の黒毛和種は、甲州牛としてブランド化されている。



米

峡北地域※では、南アルプスなどの豊かな水と長い日照時間の恩恵を受けて生産されている。
※ 峡北地域：韮崎市・北杜市・甲斐市内のうち旧双葉町



スイートコーン

5月の平坦地でのハウス栽培から、8月の高冷地栽培まで長期にわたり出荷されている。
(収穫量全国5位)



クレソン

豊富な水を利用した栽培により、周年出荷されている。収穫量は全国の約4割を占める。
(収穫量全国1位)



にじます(養殖)

豊富で清澄な天然水を利用した淡水魚の養殖が行われている。
(収穫量全国2位)



洋ラン(鉢もの類)

長い日照時間や標高差を活かして栽培が行われ各地に出荷されている。
(出荷量全国5位)



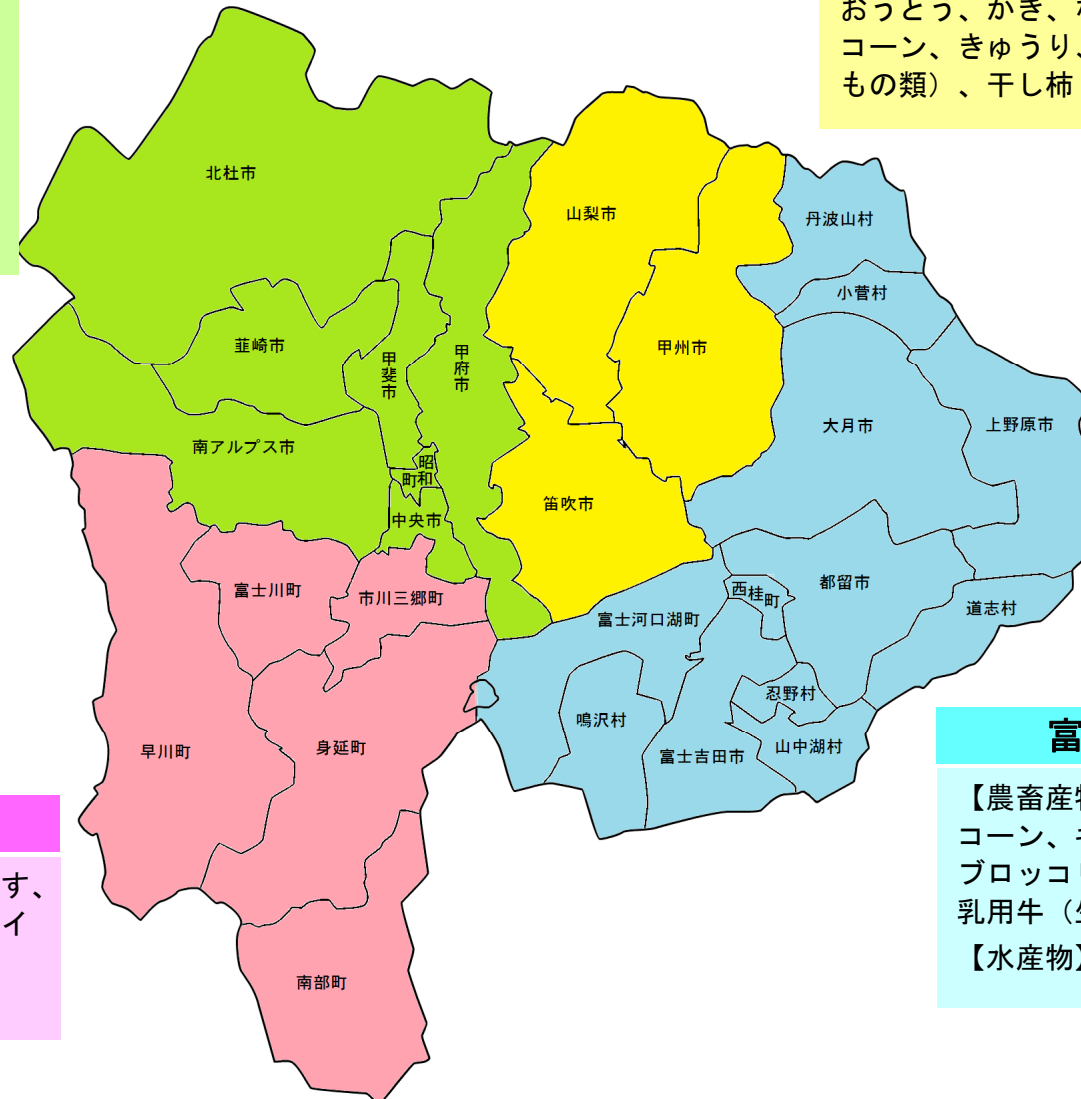
山梨県内の各地域における農林水産物

中北（ちゅうほく）地域

【農畜産物】 水稻、ぶどう、もも、すもも、おうとう、かき、スイートコーン、きゅうり、トマト、なす、やまのいも、洋ラン類（鉢もの類）、キウイフルーツ、うめ、さやいんげん、肉用牛、乳用牛（生乳）、豚、鶏（鶏卵）
【林産物】 薪

峡東（きょうとう）地域

【農産物】 ぶどう、もも、すもも、おうとう、かき、なす、スイートコーン、きゅうり、洋ラン類（鉢もの類）、干し柿



峡南（きょうなん）地域

【農産物】 茶、スイートコーン、なす、大豆、えだまめ、ユズ（柚）、キウイフルーツ
【林産物】 竹炭

富士・東部地域

【農畜産物】 クレソン、スイートコーン、キャベツ、さやいんげん、ブロッコリー、花き（鉢もの類）、乳用牛（生乳）
【水産物】 にじます（養殖）

山 梨 県 の 農 業 (1)

- ・耕地面積は2万3,300ha、そのうち約4割(9,960ha)が樹園地。
- ・総農家数は2万7,986戸、うち販売農家は1万4,178戸。
- ・認定農業者数は2,394経営体、うち法人は232経営体。

耕地面積

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
耕地面積	23,300 ha	4,349,000 ha	43
田	7,710 ha	2,366,000 ha	44
畑	15,600 ha	1,983,000 ha	25
普通畑	4,780 ha	1,126,000 ha	34
樹園地	9,960 ha	263,200 ha	9
牧草地	857 ha	593,400 ha	18
参考) 総土地面積	446,527 ha	37,797,463 ha	32

出典:「令和3年耕地面積(7月15日現在)」、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	6,695 ha	281,831 ha	17

出典:「令和2年の都道府県別の荒廃農地面積」

担い手への農地の集積状況

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	6,087 ha	2,535,115 ha	43
集積率	26.0 %	58.0 %	38

出典:「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和2年度版)」

注: 農地中間管理機構を介さないものを含む。
令和3年3月末の数値である。

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
農業経営体数	14,970 経営体	1,075,705 経営体	33
法人経営体	268 経営体	30,707 経営体	42
総農家数	27,986 戸	1,747,079 戸	30
販売農家	14,178 戸	1,027,892 戸	33
参考) 世帯総数	338,853 世帯	55,830,154 世帯	41
集落営農数	5 集落営農	14,490 集落営農	45

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「集落営農実態調査(令和3年2月1日現在)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	20,500 人	1,363,038 人	29
男	11,730 人	822,144 人	30
女	8,770 人	540,894 人	27
65歳以上	15,171 人	948,621 人	30
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	74.0 %	69.6 %	-
認定農業者数	2,394 経営体	233,806 経営体	30
法人数	232 法人	26,080 法人	39
参考) 総人口数	809,974 人	126,146,099 人	42

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和2年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

令和4年3月10日時点における最新の統計等の公表データを使用

山梨県の農業（2）

- ・農業産出額は974億円で全国第32位。内訳は、果実が67%、野菜が12%、畜産が8%、米が6%。
- ・農畜産物の生産状況は、ぶどう、もも、すもも及びクレソンが全国第1位、おうとうが3位。
- ・農業者等による生産関連事業は、観光農園の経営体数が560経営体、年間販売金額が30億2,500万円为全国第1位。

農業産出額

区分	山梨県	全国	全国順位
農業産出額	974 億円	89,557 億円	32
米	58 億円	16,551 億円	44
麦類	0 億円	521 億円	31 *
雑穀	0 億円	77 億円	27
豆類	1 億円	712 億円	34
いも類	7 億円	2,391 億円	35
野菜	117 億円	22,520 億円	41
果実	650 億円	8,741 億円	5
花き	36 億円	3,080 億円	28
工芸農作物	1 億円	1,553 億円	41
その他作物	21 億円	697 億円	9 *
畜産	78 億円	32,279 億円	41
肉用牛	12 億円	6,863 億円	41
乳用牛	24 億円	9,310 億円	40
生乳	21 億円	7,798 億円	40
豚	12 億円	6,596 億円	40
鶏	29 億円	8,724 億円	40
鶏卵	15 億円	4,577 億円	39
ブロイラー	14 億円	3,621 億円	30 *
その他畜産物	1 億円	787 億円	31
加工農産物	5 億円	436 億円	12

出典：「令和2年生産農業所得統計」

注：1 「全国」の値は、都道府県別に推計した農業産出額を合計した値であり、全国推計した農業総産出額とは一致しない。

2 「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農畜産物の生産状況

区分	年次	山梨県	全国	全国順位	
ぶどう	収穫量	R2	35,000 t	163,400 t	1
もも	収穫量	R2	30,400 t	98,900 t	1
すもも	収穫量	R2	5,320 t	16,500 t	1
クレソン	収穫量	H30	291 t	765 t	1 *
おうとう	収穫量	R2	974 t	17,200 t	3 *
干し柿	生産量	元	588.1 t	7,473.1 t	3
洋ラン類（鉢もの類）	出荷量	R2	726 千鉢	12,300 千鉢	5
スイートコーン	収穫量	R2	8,730 t	234,700 t	5
キウイフルーツ	収穫量	R2	778 t	22,500 t	7 *
うめ	収穫量	R2	1,220 t	71,100 t	8

出典：「果樹生産出荷統計」、「地域特産野菜生産状況調査」、「特産果樹生産動態等調査」、「花き生産出荷統計」、「野菜生産出荷統計」

注：「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区分	山梨県	全国	全国順位	
観光農園	総額	3,025 百万円	35,943 百万円	1
	経営体数	560 経営体	5,290 経営体	1
農産物直売所	総額	16,028 百万円	1,053,366 百万円	30
	事業体数	900 事業体	23,650 事業体	7
農産加工	総額	34,329 百万円	946,841 百万円	9
	事業体数	480 事業体	32,400 事業体	32

出典：「令和元年度6次産業化総合調査」

令和4年3月10日時点における最新の統計等の公表データを使用

山 梨 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は13.5億円で、全国第42位。内訳は、木材生産が約8割。
- ・ 林産物の生産状況は、針葉樹が11万6,000m³、広葉樹が2万8,000m³。
- ・ 製材工場数は20工場で全国第44位。そのうち、国産材のみが19工場。

林野面積

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
林野面積	349,331 ha	24,770,201 ha	26
国有林	6,474 ha	7,153,338 ha	45
民有林	342,857 ha	17,616,863 ha	22
人工林面積	153,541 ha	10,203,842 ha	29

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「森林資源の現況(平成29年3月31日現在)」

林業経営体数

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
林業経営体数	153 経営体	34,001 経営体	41
法人経営体	60 経営体	4,093 経営体	27

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業産出額

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
林業産出額	13.5 億円	4,286.4 億円	42
木材生産	10.4 億円	1,943.7 億円	35
栽培きのこ類生産	3.0 億円	2,259.6 億円	43

出典：「令和2年林業産出額」

注：「全国」の値は、都道府県別に推計した林業産出額を合計した値であり、全国推計した林業産出額とは一致しない。

林産物の生産状況

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位	
素材生産量	144 千m ³	19,882 千m ³	31	
針葉樹	116 千m ³	18,037 千m ³	33	
あかまつ・くろまつ	23 千m ³	570 千m ³	6	
からまつ	40 千m ³	2,008 千m ³	5	
広葉樹	28 千m ³	1,845 千m ³	15	
薪	生産量	1,291.0 層積m ³	83,536.1 層積m ³	15

出典：「令和2年木材需給報告書」、「令和2年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
工場数	20 工場	4,115 工場	44
製材用素材の入荷があった工場数	20 工場	4,067 工場	44
国産材のみ	19 工場	3,237 工場	42
国産材と輸入材	- 工場	653 工場	-

出典：「令和2年木材需給報告書」

令和4年3月10日時点における最新の統計等の公表データを使用

山 梨 県 の 漁 業

- ・内水面漁業経営体数は、72経営体で全国第18位。
- ・水産物の生産状況は、内水面養殖業収穫量が939 t で全国第8位。そのうち、にじますが596 t で2位。

漁業経営体数

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
内水面漁業経営体数	72 経営体	4,772 経営体	18

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	山 梨 県	全 国	全国順位
内水面漁業・養殖業生産量	942 t	50,832 t	12 *
内水面漁業漁獲量	3 t	21,745 t	38 *
内水面養殖業収穫量	939 t	29,087 t	8 *
にじます	596 t	3,858 t	2 *

出典：「令和2年漁業・養殖業生産統計」

- 注：1 「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。
- 2 東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において、同事故の影響により出荷制限又出荷自粛の措置がとられたものについては、生産量に含めていない。

山梨県の農林水産業の話題等

山梨県における4パーミル・イニシアチブへの取組

4パーミル・イニシアチブとは、世界の土壌表層の炭素量を年間4パーミル（※）増加させることができれば、人間の経済活動等によって増加する大気中の二酸化炭素の増加を実質ゼロにすることができるという考え方に基づく国際的な取組である。

山梨県では、全国に先駆け、県の主要農産物である果樹園で発生する剪定枝を炭にして土壌に貯留することや草生栽培等により土壌へ炭素を貯留し、温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出を抑制する4パーミル・イニシアチブの取組を推進している。

また、この取組を全国に拡大して、日本の農業全体で温暖化の抑制に貢献することを目的に、山梨県が主導して2021年2月「4パーミル・イニシアチブ推進全国協議会」を設立した。

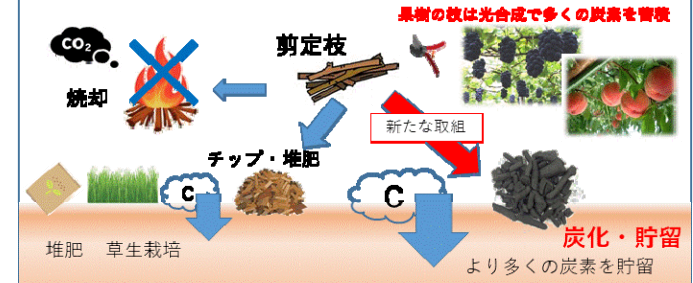
更に、4パーミル・イニシアチブの取組により生産された果実などを、脱炭素社会の実現に貢献する農産物として認証する「やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度」を制定した。

この認証制度は、脱炭素社会の実現に貢献する農産物、また環境にやさしい農産物として、新たなブランド価値を創造するものであり、全国でも初めての制度である。

※4パーミル：パーミル（‰）は千分率の単位で、4パーミルは1000分の4、パーセント（%）では0.4%に相当する

果樹園と4パーミル・イニシアチブ

果樹王国である山梨県の特性を十分に活かし、果樹園内で剪定枝を炭化・貯留して温暖化の抑制に寄与する



具体的な取組内容

試験研究

- 炭化の方法
- 煙の発生量
- 炭素の貯留量
- 土壌改良効果
- 生育への影響

現地実証

- 実用段階での課題把握
- 地域への普及加速化

ブランド化

- CO₂削減の評価と認証制度創設
- 新たな付加価値によるブランド化

ロゴマーク



YAMANASHI
4 per 1000
INITIATIVE

やまなしアニマルウェルフェア認証基準

山梨県は、令和3年度にやまなしアニマルウェルフェア認証制度検討会議を設置し、全国の自治体では初となる「やまなしアニマルウェルフェア認証制度」を創設した。

対象畜種は乳用牛、肉用牛、養豚、採卵鶏、肉用鶏であり、飼育面積や飼育環境、体の状態、運動などの基準を9～10項目設定している。達成割合に応じ3段階で取組を評価し、認証を受けた畜産物にはロゴマークを付け、付加価値を高めて販売することができる。

※アニマルウェルフェアとは、家畜の誕生から死を迎えるまでの間、ストレスをできる限り少なくし、行動要求が満たされた健康的な生活ができる飼育方法を目指す考え方

やまなしアニマルウェルフェア認証基準について

